

令和4年度町立西和賀さわうち病院の臨床指数

令和5年6月1日 町立西和賀さわうち病院 総括院長 北村道彦

公表の目的：

病院の各種臨床指数を公表することにより、職員間で病院の現状と問題点を共有し改善活動につなげる。さらに、住民、町の関係者にも病院の現状と問題点を知ってもらうことにより、住民参加、オール西和賀体制、すなわち、かつて昭和30年代に旧沢内村で深澤晟雄村長が提唱した『一体態勢』の構築を目指したい。

1. 医事関連

1) 入院患者統計、入院患者の平均年齢

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
新入院患者数	204	337	425	418	380	419	414	423	443	366
新退院患者数	210	326	419	418	375	423	420	427	426	375
入院延べ患者数	4,574	6,106	9,538	9,498	9,200	9,752	9,096	8,968	9,069	8,294
在院延べ患者数	4,784	6,432	9,957	9,913	9,570	10,169	9,509	9,386	9,491	8,666
1日平均入院患者数	12.5	16.7	26.1	26	25.2	26.7	24.9	24.6	24.8	22.7
1日平均在院患者数	13.1	17.6	27.2	27.2	26.2	27.9	26	25.7	26	23.7
病床利用率(%)	31.3	41.8	65.2	65.1	63.0	66.8	62.1	61.4	62.1	56.8
病床稼働率(%)	32.8	44.1	68	67.9	65.5	69.7	65	64.3	65	59.4
平均在院日数(日) (除外前)	22.1	18.4	22.6	22.7	24.4	23.3	21.8	21.2	20.9	22.6

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
入院患者総数	204	337	425	418	380	419	414	423	443	366
男	101	163	195	186	174	185	175	181	179	169
女	103	174	230	232	206	234	239	242	264	197
平均年齢 歳	79.1 歳	79.6 歳	80.5 歳	80.7 歳	82.1 歳	81.3 歳	82.1 歳	82.3 歳	84.4 歳	83.8 歳

解説；入院患者数は、コロナ感染症の蔓延、特に令和4年11月から12月にかけての当院が被ったクラスター発生の影響で大きく落ち込んだ。従来から目標にしている病床稼働率70%達成に向け、病院を挙げて取組んでいきたい。入院患者の高齢化は定常化し、令和4年度の入院患者の

平均年齢は令和3年と同様に84歳であった。入院患者の高齢化に伴い、退院支援、退院調整に要する時間が増加しているが、平均在院日数は、22.6日で例年通りであった。

2) 入院統計

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
自宅	148	221	235	260	249	272	252	256	266	205
医院(町内)	15	25	55	38	36	45	58	36	50	40
病院	18	41	61	50	48	58	54	58	64	57
施設	23	50	74	70	47	44	50	73	63	64
合計	204	337	425	418	380	419	414	423	443	366

解説；入院は、自宅が多く、この内、町内の医院経由も例年通りの数を示している。基幹病院や介護施設、基幹病院からの入院も例年通りの数であった。

3) 町外からの入院数

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
4	10	18	8	13	10	11	14	15

解説；町外からの患者は15名で、最近若干増加傾向を示している。基幹病院のある北上地区は、維持期の患者受け入れ施設が少なく、同じ圏域である同地域からの入院受け入れは、当院の大切な使命である。一方で現場では、患者家族の見舞いや病院からの説明の利便性の問題があり、克服すべき課題がある。

4) レスパイト入院

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
延べ入院数	15名	19名	8名	15名	10名
延べ入院日数	191日	223日	70日	191日	168日
平均在院日数	12.7日	11.7日	8.8日	12.7日	16.8日

解説；レスパイト入院は平成29年12月から開始した。令和4年度の受入数は10名と多くはなかったが、介護ニーズが高いこの町で、介護者の負担軽減のための入院は必要である。今後も医療ニーズの高い方を中心にレスパイト入院の受け入れを続けたい。令和4年度の平均在院日数は16.8日と集計を開始してから最長であった。レスパイト入院として受け入れた患者の医療ニーズが高く、治療に移行した例があったためであった。

5) 退院統計（どこへ退院したか）

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
自宅	148	218	229	260	225	265	238	255	241	182
医院(町内)	1	16	26	25	11	31	38	24	29	22
病院	19	21	46	35	54	47	51	31	54	52
施設	24	34	78	61	45	46	55	74	59	70
死亡	18	37	40	37	40	34	38	43	43	49
合計	210	326	419	418	375	423	420	427	426	375

解説；入院治療後は原則的に紹介先の医院、施設に紹介している。自宅退院が多く、町内の医院への紹介は例年通りであった。病院への紹介、施設入所退院数は例年通りであった。死亡退院数は48名と若干多かった。コロナ感染症の影響も考えられる。

6) 科別外来患者統計

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
内科	8,830	9,455	9,682	9,310	9,090	9,104	8,562	9,201	9,252
外科	7,059	7,068	6,457	6,540	6,382	6,052	5,653	5,561	4,638
眼科	1,343	1,354	1,318	1,235	1,256	1,216	1,036	1,235	1,197
小児科	185	262	222	221	175	176	99	73	250
訪問	143	103	61	82	44	80	176	186	216
施設（ぶなの園）	767	684	714	748	761	709	671	736	706
神経内科			237	250	226	195	274	231	241
皮膚科	575	717							
耳鼻咽喉科	154	338	367	340	359	351	282	337	300
泌尿器科	122	344	423	424	363	401	300	474	458
整形外科	136	472	600	651	773	1,040	992	957	846
腎臓内科			47	128	178	172	145	112	81
循環器内科		40	125	113	108	121	92	95	114
禁煙外来					12	17	18	3	3
透析	2,270	2,514	2,748	3,009	3,082	2,966	2,955	2,733	2,212

健診・特定健診・ 人間ドック	427	429	400	417	370	373	343	367	368
歯科	7,312	7,291	7,396	7,424	7,784	7,621	6,351	6,674	6,807
認知症外来（再掲）	22	446	486	654	756	842			
リハビリ（再掲）	2,747	2,342	1,353	1,382	967	714	755	723	221
合計	29,323	31,071	30,797	30,892	30,963	30,594	28,039	28,975	27,689

解説；内科は例年通りであった。外科はコロナ感染症の影響で減少した。小児科の増加はコロナ感染症の診断、治療により大きく増加した。包括ケア病床の運用の中で、要件となっている訪問診療件数は増加しており、平成26年以降では令和4年度が最多であった。従来から住民の要望が寄せられている専門外来の維持には力を入れ、医療の地域完結性の向上を目指している。透析患者の割合が県の1.5倍以上の当町では、腎臓内科による透析回避診療が重要である。禁煙外来は少なく、対策が必要である。透析患者の高齢化に伴い、死亡例や町外への移動があり、透析数は減少した。健診数は例年通りであった。歯科は、令和4年度は若干増加した。

7) 診療単価（単位：円）

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
入院	24,778	21,447	23,247	23,199	22,130	23,647	24,915	31,685	33,011	33,973
外来	8,869	9,307	9,632	9,469	9,504	9,003	8,746	9,076	9,182	9,880
歯科	5,771	5,732	5,719	5,784	5,840	5,900	6,282	6,977	7,315	8,405

解説；入院に関しては、令和2年度以降は、包括ケア病床の導入で大幅増加を達成できた。外来の増加は、コロナ感染症の高価な治療薬の影響と考えられる。歯科の診療単価は順調に増加している。

8) 経営収支（単位：千円）

区分	平成25 年度	平成26 年度	平成27 年度	平成28 年度	平成29 年度	平成30 年度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度
1. 医業収益	406,948	449,400	571,779	564,906	546,432	563,322	553,306	603,523	640,103	626,635
1) 入院収益	113,336	137,949	231,467	229,973	211,784	240,463	236,916	297,391	313,310	294,409
2) 外来収益	216,331	242,798	266,626	260,584	262,444	251,280	245,521	238,031	250,216	259,888
収益合計	619,294	816,809	875,071	872,492	862,081	892,710	908,130	932,036	935,212	946,033
うち一般会 計繰入	239,569	374,984	275,136	270,161	279,704	282,623	287,856	270,118	239,464	260,166

2. 医業費用	624,932	858,067	963,860	963,147	975,676	941,367	939,561	959,755	951,743	954,501
1) 給与費	364,596	482,752	497,289	483,479	475,576	486,397	518,893	538,528	569,978	577,141
2) 材料費	73,901	101,559	102,813	96,613	97,787	74,392	72,297	72,668	74,566	86,115
費用合計	634,235	881,610	983,759	982,407	995,459	943,192	941,277	966,110	953,370	978,557
事業損益	-14,941	-64,801	108,688	109,915	33,378	-50,483	-33,147	-34,074	-18,158	-32,524

解説；令和2年度以降は、包括ケア病床の導入で入院収益が増加している。その結果一般会計繰入金が増加傾向にあり、病院経営は適正な方向に向かっている。引き続き、医業費用の削減に一層努力したい。

9) フットケア外来実績

		令和2年度	令和3年度	令和4年度
件数	DM加算		18	23
	爪甲除去		132	129
	胼胝・鶏眼処置		69	51
	総数	156	219	203
点数	DM加算		3,060	3,910
	爪甲除去		7,920	7,740
	胼胝・鶏眼処置		11,730	8,670
	総数	15,180	22,710	20,320

解説；フットケア外来は、令和2年度から実績を集計している。糖尿病性足病変を視野に入れながら、実際は白癬菌症、巻爪などが対象の多くを占めている。患者ニーズが高い領域である。令和4年度は前年度同様の件数であった。

10) ケアマネージャーと病院の連携シート

連携シート発行状況

ケアマネから病院へ	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
発行数	39	43	44	65	80	71	86	101
対象者	229	207	189	246	245	255	267	277
発行率	17%	21%	23%	26%	33%	28%	32%	36%
病院からケアマネへ	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
発行数	108	113	85	142	121	113	115	119
対象者	208	199	155	218	224	248	231	227
発行率	52%	57%	55%	65%	54%	46%	50%	52%

サマリーを含めた情報連携状況

ケアマネから病院へ	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
発行数	147	143	160	166
対象者	245	255	267	274
発行率	60.00%	56.10%	59.90%	60.58%
病院からケアマネへ	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
発行数	190	189	204	210
対象者	224	248	231	227
発行率	85%	76%	88%	93%

解説；ケアマネジャーと病院の連携シートの運用数は、最近は頭打ちの状態であるが、サマリーを代用することで、全体には連携は活発になされており、令和4年度は、病院からは9割を超える情報発信がなされた。

11) 転院患者入院時カンファランス

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
転院患者総数	41	61	50	51	55	55	57	64	56
カンファランス施行数	38	51	41	35	45	39	39	45	33
施行率	93%	84%	82%	69%	82%	71%	68%	70%	59%

参加職種	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
医師	-	54	46	54	59	46	43	51	39
看護師	-	95	109	68	72	50	43	53	40
MSW	-	49	41	35	45	39	39	45	30
リハビリ技士	-	46	40	32	52	40	38	46	33
管理栄養士	-	37	32	23	32	28	4	4	4

参加者	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
患者本人	-	10	9	3	6	20	14	16	9
家族	-	89	75	56	80	64	57	61	60
ケアマネ	-	22	23	18	20	18	19	23	14
包括支援センター・町職員	-	18	3	3	8	15	13	13	1

解説；転院患者の入院時カンファランスは、平成26年4月から開始した。多くは急性期病院である前医での説明とその内容の患者家族の受け止め方、患者家族の思いなどを確認し、当院での治療の目標を共有する重要な場となっている。中間期目標の設定や、時間管理を行うことも多く、退院支援、退院調整を進めるうえで、欠くことができない集まりになっている。カンファランス実施率は70%前後であったが、令和4年度はコロナ禍の影響か実施率が下がった。参加職種のコアメンバーは、医師、看護師、MSW、リハビリ技士、管理栄養士である。ただ、令和2年度以降は管理栄養士が産休に入り参加できなかった。患者側は、家族とケアマネージャーが中心で、介護保険未申請の場合などは包括支援センターや町の職員が参加している。本人の参加が増えることを期待している。

12) 病院救急車

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
総数		4	12	8	7	5	22	10
内訳	転院	0	11	7	6	1	8	8
	通院	2	0	0	0	0	9	0
	一時帰宅	1	1	1	0	0	4	0
	自宅退院	1	0	0	1	4	1	2

解説；独居や高齢者同士の世帯が多い高齢の町では、転院や自宅への退院の際の交通手段の確保は大きい課題であり、病院救急車の運用は非常に重要である。最近、終末期の一時帰宅の交通手段として用いることもあり、本人、ご家族の高い満足度が得られている。令和3年度は新型コロナワクチン接種の通院に用いられて急増した。令和4年度は10名で、例年並みであった。

13) 未収金

発生時期	～平成10年	平成10年～平成20年	平成20年～平成25年	平成25年～平成29年	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	合計
人数	1	8	2	1	0	0	0	1	2	15
収金残額(円)	32,310	306,610	175,448	17,490	0	0	0	40,280	126,850	698,988

解説;未収金を減らすことは、町立病院の重要なミッションである。令和4年度は若干増えたが、過去5年間の取り組みは、全体として立派である。

14) 訪問診療、訪問看護

		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
介護 保険	訪問看護	590	137	218	191	179	127	60	105	135
	居宅療養管理指導	97	54	46	40	35	67	148	153	164
医療 保険	訪問看護	3	12	6	31	2	0	4	17	22
	訪問診療	97	56	51	47	51	66	166	161	187

解説;平成26年度から、入院患者の増加を病院運営の柱とした。そのため、訪問診療、訪問看護の例数は大きく減少していた。令和2年度から包括ケア病床を導入し、その運用の条件として訪問診療が必要であり、件数は急増した。改めて振り返ると、高齢の町では訪問診療、訪問看護医療ニーズは大きく、今後も継続したい。コロナ禍の中であったが、訪問診療、訪問看護とも増加傾向を示している。

15) 夜間診療、オンライン診療

夜間診療

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
35	36	42	29	22	20	16	20

オンライン診療

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人数	3	3	
延べ回数	9	7	227

解説;夜間診療は住民の要望を受けて、平成27年1月から開始した(月1回、第2火曜日)。症例数の増加は認められず、対策が必要である。オンライン診療は、新型コロナウイルス感染症の蔓延対策として導入、令和4年度は激増した(延べ回数のみ集計)。

16) 死亡統計

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
診断書	40	47	41	44	45	48	50	43	45	55	54	73
検案書	10	3	6	8	7	0	4	4	7	5	3	2

計	50	50	47	52	52	48	54	47	52	60	57	75
---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
ぶなの園看取り	2	0	7
在宅看取り	2	3	5

解説；死亡者数は、令和2年度以降は増加傾向を示していた。令和4年度はコロナ科の影響があり急増した。小原院長の指導で取組んでいる、嘱託契約を行っている特養施設のぶなの園の看取りは増加した。在宅看取りも順調に増加している。これらの取り組みには、令和4年4月に活動を開始した緩和ケアチーム（緩和ケア委員会）の関与が大きな力になっている。

17) エンドロールカンファ

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
8例	4例	5例	12例	10例

解説；エンドロールカンファと名称をつけたデスカンファは、終末期治療の充実を目的として平成29年から開催しており、小原院長の専門的指導のもとでの終末期の個々のケアの振り返りとして大変重要な取り組みである。研修医教育の一環とも位置づけており、月1回の定期的な開催を継続している。

18) 手術室対応手術数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
外来	9	3	5	7	4	11	5	5	9	5
病棟	1	2	10	21	25	19	14	9	5	10
合計	8	5	15	28	29	30	19	14	14	15
医師延人数	10	10	25	42	50	52	32	24	20	28
スタッフ延人数	24	24	42	95	73	58	44	32	32	30

解説；手術室施行の手術件数は、最近では15例前後で推移している。今後とも積極的に小手術を行なっていきたい。

19) 内視鏡数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
上部内視鏡	162	134	165	174	139	162	140	171	140	169
胃瘻	5	10	11	7	4	17	8	15	8	10
下部内視鏡	42	43	61	98	43	55	62	67	71	64

ポリープ切除	0	0	1	9	0	0	0	0	3	1
--------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

解説；山下医師と中野医師の応援診療により、内視鏡施行症例数は維持されている。胃瘻のニーズにも十分対応できている。クリニカルパスを導入して実施している大腸ポリープ切除の増加を期待している。

20) 査定

		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度 4-11 月
入 院	請求 点数	19,360,036	21,218,793	20,201,042	22,144,304	22,046,984	28,955,226	29,601,829	18,985,784
	査定 点数	37,234	41,929	24,724	16,129	33,280	12,321	67,967	15,417
	査定率	0.19%	0.20%	0.12%	0.07%	0.15%	0.04%	0.02%	0.08%
外 来	請求 点数	20,252,317	21,549,861	22,116,095	20,267,161	19,476,612	19,258,301	19,889,366	13,554,318
	査定 点数	57,390	34,161	33,259	31,559	27,390	23,654	28,467	26,732
	査定率	0.28%	0.16%	0.15%	0.16%	0.14%	0.12%	0.14%	0.20%
合 計	請求 点数	39,612,353	42,768,654	42,311,082	424,114,654	41,523,596	48,213,527	49,491,195	32,540,102
	査定 点数	94,624	76,090	57,983	47,688	60,670	35,975	35,263	42,149
	査定率	0.24%	0.18%	0.14%	0.11%	0.15%	0.07%	0.07%	0.13%

解説；病院を挙げて査定減に取り組んでおり、全体的には成果が上がりつつある。令和 2 年度と 3 年度は初 0.1%以下に下がったが、令和 4 年度は、入院、外来とも増加しており、対策を展開中である。

21) 減耗 (円)

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
内 服	438,027	333,952	85,024	154,621	261,480	228,242	228,844	518,362	102,630	249,522
注 射	17,243	27,851	105,364	161,826	625,138	236,101	107,805	80,855	141,688	75,753
材 料	43,565	127,890	12,000	144	30,389	0	0	0	42,462	73,725
合 計	498,835	489,693	202,388	316,591	917,007	464,343	336,649	599,217	286,780	399,000

解説；令和 4 年度は内服薬の減耗が増加した。また、過去 3 年間 0 であった材料費の減耗が増加している。これらに関しては分析と対策が必要である。

22) 光熱水費

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
燃料チップ	6,766,200	5,821,200	6,375,950	6,294,750	6,860,700	6,344,800
重油	1,209,600	640,440	829,800	809,490	1,664,300	1,098,900
電気	17,964,488	18,689,365	16,876,340	15,560,064	17,614,456	25,651,360
上水道	1,391,040	1,448,280	1,509,726	1,574,320	1,727,000	1,335,840

解説；光熱水費のうち、燃料チップ、重油、水道に関しては、入院患者数の減少もあり減少した。

一方、電気は全国的な高騰のあおりを受けて、急増している。

23) 退院時要約の 2 週間以内作成率

	令和 3 年度	令和 4 年度
退院患者数	426	375
2 週間以内作成件数	174	335
2 週間以内作成率	40.8%	89.3%

解説；退院時要約の 2 週間以内作成率は、令和 3 年度初めて集計した。令和 4 年度は 89.3% であり目標に近づいた。退院時要約作成支援業務に携わる医療クラークに感謝する。

2. 救急

1) さわうち病院の救急車受け入れ患者の内訳、ウォークイン来院者の内訳、へり搬入・搬送数
救急車受け入れ患者の内訳

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
他院搬送	3	15	7	15	16	17	6	17	22	10
入院	43	68	71	73	63	55	66	72	68	68
死亡	8	7	9	4	6	8	12	14	7	12
帰宅	16	23	36	62	53	32	43	18	47	55
合計	70	113	123	154	138	111	127	121	144	145

ウォークイン来院患者の内訳

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
他院搬送			26	14	10	13	26	18	26	17
入院			90	74	55	59	133	117	72	62
死亡			2	6	6	3	3	2	2	6
帰宅			574	514	508	467	535	333	437	596

合計			692	608	579	542	697	470	537	681
----	--	--	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

ヘリ搬送・搬入

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
ヘリ搬送				1	0	0	2	1	2	0
ヘリ搬入				3	0	0	0	0	0	0

解説；令和4年度の救急車の受け入れは、昨年度と同様に多く約半数が入院した。帰宅は約3割であり、当地の救急車の安易な利用は少ない。ウォークイン来院患者の内訳をみると、死亡、転院、入院を合わせると約2割を占めており、トリアージの重要性が示されている。基幹病院までの距離が長いことから、ヘリコプターの利用推進が必要と考えられるが、令和4年度はなかった。

2) 西和賀消防の活動状況とさわうち病院の救急車受け入れ状況

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
西和賀消防救急車出動件数 (a)	294	302	316	322	335	317	334	303	350	317
西和賀消防救急車搬送件数 (b)	269	280	289	297	304	295	316	278	327	299
西和賀消防救急車搬送人数 (c)	280	287	300	301	305	298	320	283	331	300
さわうち病院搬送件数 (d)	67	104	111	144	129	100	124	114	142	137
カバー率 (d/b)	24.9%	37.1%	38.4%	48.4%	42.4%	33.9%	39.2%	41.0%	43.4%	45.8%
さわうち病院搬送人数 (e)	69	111	115	144	129	103	125	115	143	137
カバー率 (e/c)	24.6%	38.7%	38.3%	47.8%	42.3%	34.6%	39.1%	40.6%	43.4%	45.6%
不搬送件数 (f)	25	22	9	25	22	17	24	13	22	31
不搬送人数 (g)	25	23	11	25	22	17	24	13	22	31
救急車応需件数率 (d/(d+f))	72.8%	82.5%	92.5%	85.2%	85.4%	85.5%	83.8%	89.8%	86.6%	81.5%
救急車応需人数率 (e/(e+g))	73.4%	82.8%	91.3%	85.2%	85.4%	85.8%	83.9%	89.2%	86.7%	81.5%

解説；令和4年度はさわうち病院では西和賀町の救急車137台を受けており、比較的多かった。カバー率は46%であった。一方、救急車応需率は82%と低下した。休日、夜間の対応強化が課題である。

3) 令和4年度の当院に収容依頼後の不搬送事例の重症度と搬送先

	軽症	中等症	重症	死亡	総計
例数	13	16	2	0	31
割合	41.9%	51.6%	6.5%	0.0%	

	中部病院	平鹿総合病院	中央病院	その他	総計
例数	7	13	5	6	31
割合	22.6%	41.9%	16.1%	19.4%	

解説；令和4年度における、当院に収容依頼後の不搬送事例は31例で増加傾向があった。うち軽症例は約4割であった。軽症例の不搬送を減らすことが町立病院の使命であり努力したい。不搬送事例の多くを引受けてくれた平鹿総合病院、県立中部病院、県立中央病院に感謝します。

4) 令和4年度の西和賀消防管内の救急車搬送先と重症度

	死亡	重症	中等症	軽症	合計	カバー率
さわうち病院	13	29	39	56	137	45.7%
中部病院	1	14	34	12	61	20.3%
平鹿総合病院	0	6	15	16	37	12.3%
中央病院	1	5	10	3	19	6.3%
その他	0	14	22	10	46	15.3%
合計	15	68	120	97	300	
重症度の内訳	5.0%	22.7%	40.0%	32.3%		

解説；さわうち病院は、重症度に関係なく、万遍に救急車を受けている。また死亡例の多くを受け入れており、地域病院の責務を全うしている。重症者の割合が多い基幹病院に感謝している。西和賀町では他の地域と比べ軽症者が少なく救急車の使用は適正と思われる。

5) 雪関連事故

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
件数	29	18	25	30	17	13	32	21	13
重症度中等度以上	8	7	11	12	9	7	12	12	8

骨折（再掲）	6	6	10	7	9	7	12	12	7
死亡（再掲）	0	1	1	0	0	0	1	1	0

解説；令和4年度は降雪量が少なく、雪関連事故は13例と少なかった。内訳では半数が骨折などの重症例であった。

3. 各部門の活動

1) 薬剤部門

	平成25 年度	平成26 年度	平成27 年度	平成28 年度	平成29 年度	平成30 年度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度
外来院内 処方数	3,174	3,190	3,434	2,737	2,541	760	520	285	361	491
外来院外 処方数	12,350	12,512	12,655	13,296	13,426	14,439	14,946	13,822	14,524	13,942
入院処方数	1,687	2,190	2,883	3,201	3,625	4,531	4,342	4,399	5,155	4,941

	平成28 年度	平成29 年度	平成30 年度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度
後発品のある先発品 ＋後発品規格単位	360,975	350,427	208,428	135,473	110,149	122,385	113,293
後発品の規格単位	157,354	185,522	135,617	110,265	97,814	106,229	103,248
後発品の使用割合	43.6%	52.9%	65.1%	81.4%	88.8%	86.8%	91.1%

解説；平成30年度に小児、透析、注射の処方を原則院外とした。それに伴い外来の院内処方は大きく減少した。一方、令和4年度は、前年に引き続き新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴う対応としてドライブスルー診察を継続したため外来の院内処方増加した。外来の院外処方数には大きな変化はなかった。入院処方数は入院患者の減少に伴い若干減少した。令和4年度の後発品の使用割合は91%と初めて90%を超えた。

2) 放射線部門

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
CR	2,201	2,518	3,009	2,872	2,943	3,069	3,152	3,460	3,646	3,508

CT	372	464	834	828	875	1096	969	957	1,285	1,085
骨密度	691	667	738	667	825	905	986	975	1,053	1,101
歯科	368	414	487	418	410	417	453	321	286	520
透視	51	54	53	43	97	125	104	116	112	104
ポータブル	131	161	124	24	35	9	28	15	25	30
MRI				163	139	144	168	224	175	125
合計	3,814	4,278	5,245	5,015	5,324	5765	6,100	6,068	6,583	6,473

依頼検査数

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
CT	39	50	44	32	58	77	37	33	6
MRI			2	2	1	0	1	0	0
合計	39	50	46	34	59	77	38	33	6

Ai 件数（死亡例での CT 施行件数）

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
Ai 件数	1	5	1	5	2	7	4	6	6

解説；令和 4 年度の検査は入院患者の減少があったが、ほぼ例年並みであった。その中でMRI の減少に関しては分析が必要である。令和 4 年度は町内開業医からの依頼検査数はコロナ禍の影響で大きく減少した。Ai はここ数年定着している。

3) 検査部門

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
検体数	7,470	9,666	10,946	10,415	8,219	12,684	11,509	11,691	13,545	11,737
肺機能	360	321	353	93	86	94	86	10	7	2
心電図	1,021	1,065	1,353	1,250	1,249	1,224	1,136	1,409	1,546	1,485
超音波	351	378	603	598	481	470	363	362	321	389

解説；令和 4 年度は入院患者数の減少に伴い検体数は減少した。令和 2 年以降、新型コロナウイルス感染症対策のため肺機能は減少している。西田技士の頑張りで超音波検査数は順調に増加している。

インフルエンザ	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
検査数	256	288	58	99	619
A 型	79	76	0	0	18
B 型	1	0	0	0	9
合計	80	76	0	0	27
陽性率	31%	26%	0%	0%	4%

新型コロナ	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
検査数	0	0	77	347	1703
陽性数	0	0	0	18	440
陽性率			0%	5%	26%

解説；インフルエンザ検査状況と新型コロナの検査状況を初めて集計した。令和 4 年度の新型コロナ感染の爆発的な増加が顕著に示される。オミクロン株の感染力の強さを思い知らされた。対照的にインフルエンザ感染は著しく減少した。マスク着用と手洗いの効果を実感する結果となった。

4) リハビリテーション部門

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
入院	1,144	1,368	2,409	2,905	2,968	4,005	3,852	3,783	4,542	4,530
外来	2,840	2,874	2,560	1,455	1,427	903	618	776	726	223
訪問	745	638	785	666	479	299	382	317	323	289
通所			858	1,000	831	978	933	928	891	740
合計	4,729	4,880	6,612	6,026	5,705	6,185	5,785	5,804	6,482	5,782

解説；平成 30 年度以降、入院患者中心の運営を行っている。入院患者の高齢化に伴い、リハビリのニーズは毎年上がっており、令和 4 年度は入院患者数が減少したにもかかわらず入院リハビリ施行数が過去最高に近い数字を示した。外来リハや訪問リハ、通所リハはコロナ禍の影響を大きく受けて減少した。

退院前リハビリ訪問指導

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
件数	8件	15件	18件	9件	27件	16件	18件	21件	12件

解説；入院患者の在宅移行を安全で不安なく行なうためには、退院前リハビリ訪問指導は必須であるが、令和4年度はコロナ禍で施行数が減少した。

5) 栄養管理部門

給食、特別加算食、透析外来食、ドック食の推移

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
入院給食延数	9,834	15,903	26,291	26,164	22,676	26,014	23,595	23,809	24,359	22,190
特別加算食	2,059	1,680	6,393	6,433	5,817	7,265	7,696	7,807	7,909	7,802
率 (%)	20.9%	10.6%	24.3%	24.6%	25.7%	28.4%	32.6%	32.8%	32.5%	32.5%
透析外来食	1,432	1,612	1,898	2,031	2,166	2,046	1,313	312	263	0
ドック食数	338	310	331	290	325	264	254	211	227	219

解説；給食部門は、令和2年度は委託から院内組織に変更する大きな変化があった。タイムリーな個別対応や非加熱野菜の提供、多彩なメニュー、食欲を誘う提供形態など新しい試みを次々に展開してくれている。入院患者の減少に伴い令和4年度の給食を提供数は減少した。特別加算食率は高く維持できた。コロナ感染症対策のため透析外来の給食は廃止された。人間ドック食は例年通りであった。

栄養指導件数

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
外来・入院	84	51	53	79	45	80	15	37	57	27
ドック	338	310	326	300	325	260	254	211	227	219

解説；外来・入院の栄養指導件数は常勤管理栄養士の産休・育休の影響で減少している。ドックの栄養指導数は例年通りであった。

給食の栄養給与充足率

	基準	平成29 年度	平成30 年度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度
エネルギー	100%	99%	100%	100%	100%	100%	101%

たんぱく質	95-105%	93%	93%	96%	94%	94%	96%
脂質	95-105%	98%	100%	98%	100%	100%	103%
食塩	100%以下	99%	100%	100%	101%	99%	96%
カルシウム	100%以上	93%	92%	92%	88%	100%	100%
鉄	100%以上	113%	107%	135%	120%	123%	131%
ビタミンA	100%以上	97%	101%	104%	90%	101%	103%
ビタミンB1	100%以上	75%	75%	81%	85%	99%	102%
ビタミンB2	100%以上	87%	85%	92%	88%	98%	98%
ビタミンC	100%以上	106%	110%	124%	108%	107%	105%
食物繊維	100%以上	68%	68%	78%	83%	101%	106%

解説；以前からの課題であったビタミンB1、B2、食物繊維の充足率は、令和3年以降、目標のレベルを維持している。給食部門が委託から病院直営になった効果で大変喜ばしい。

入院給食嗜好調査

総合満足度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
満足	10	13	9	17	35	38
普通	7	11	14	8	12	11
不満	0	0	0	3	0	1
未回答	0	1	0	0	0	0
総計	17	25	23	28	47	50
満足の割合 (%)	58.8%	52.0%	39.1%	60.7%	74.5%	76.0%

解説；入院給食嗜好調査の成績は、令和3年度、4年度とも良好であった。誠に立派である。

摂食機能療法

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
対象者	25	21	29	51	34	30	36	34	37
算定回数	494	362	611	784	408	467	451	467	623
算定可能日数	501	377	616	788	419	467	451	467	625
実施率 (%)	98.6%	96.0%	99.2%	99.5%	97.4%	100.0%	100.0%	100.0%	99.7%

解説；高齢者が多く摂食嚥下機能障害患者が多いため、NST活動の一環として、摂食機能療法には力を入れている。令和4年度は過去2番目に多い算定回数であった。

6) 透析

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
延べ透析患者数			1,633	1,951	2,129	2,334	2,746	2,919	3,009	3,100	3,100	3,078	2,925	2,369
延べ水質管理数			1,633	1,951	2,129	2,334	2,746	2,919	3,009	3,100	3,212	3,078	2,925	2,369
患者数（延べ数）	8	11	13	15	15	19	20	21	20	21	22	22	21	19
患者数（年度末）							19	19	20	21	21	20	17	16
新規導入	8	3	3	3	1	5	3	1	1	1	1	1	1	2
離脱			0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
死亡			0	1	1	1	0	2	0	0	0	1	3	3
転院			1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
シャント PTA 依頼 件数							4	13	10	13	13	20	20	20
人工呼吸器患者			1	1	1	2	3	2	4	2	4	2	3	3
CART 療法患者数				2							1		1	1

解説；当町は透析患者の割合が県の平均値より 1.5 倍高く、腎不全患者の透析導入回避は喫緊の課題である。令和 4 年度の透析患者数は、高齢化に伴う死亡数の増加のため減少した。透析新規導入患者は 2 例であった。腎臓内科の活動や、一般内科での CKD（慢性腎臓病）管理の強化し透析新規導入を減らすことが重要で、平成 21 年からの中長期のスパンでみると一定程度効果は上がっていると評価できる。人工呼吸と CART の実施は例年通りであった。

7) 歯科

歯科医の保健活動

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
学校医・保育所医活動	14.5	13	15	15.8	11.8	13	17.3	10.3	14	10
幼児・就学時健診活動	10	11.5	11.5	9.8	7.6	7.3	8.3	4.6	6.7	5.5
人間ドック健診活動	37	34	37.5	34.2	38	42.2	31.5	28	30.7	28
歯科保健講話	1	4.5	3.5	4	0	1	0	0	0	0
学校保健会活動	12	14	15	13.3	12	15.3	12.5	9	6.5	11.5
障害者施設健診活動	0	0	4.5	0	2.3	0	3.5	2.5	2.7	2.7
計（時間）	74.5	77	87	76.9	71.7	78.8	73.1	54.4	60.6	57.7

骨粗鬆症治療関連歯科診察（顎骨壊死予防）

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
人数	33	20	16	19	29

解説；歯科医の保健、福祉活動は、多方面にわたり精力的に行なわれている。顎骨壊死予防のための骨粗鬆症治療前歯科診察は、医科歯科連携の大きなテーマであり、症例数は伸びている。確実な歯科紹介を続けたい。

歯科衛生士の保健活動

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
実施延人数	2,145	1,939	1,871	2,063	1,674	1,495	1,562	1,441	1,230	1,280
衛生士延人数	240	202	207	217	210	108	176	162	153	170
所要時間	156 時間 10分	148 時間 10分	146 時間 40分	145 時間 25分	143 時間 35分	136 時間 35分	122 時間 30分	90 時間 20分	90 時間 20分	86 時間

解説；歯科衛生士は、西和賀町の歯科保健活動に積極的に関わっている。

歯科技工士の活動

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
義歯（新義歯作成、修理、リベース）	1337	1,286	1,374	1,240	1,285	1,716	1,351	1,025	1,060	1,604
インレー、クラウン、ブリッジ、硬質レジン前装冠	357	377	246	286	320	214	292	295	369	604
自費治療（矯正、金属床、ハイブリッドなど）	0	7	23	12	19	17	12	13	16	17
*歯科技工加算	342	329	335	289	302	326	304	271	306	283

解説；令和4年度は歯科技工士の活動では「インレー、クラウン、ブリッジ、硬質レジン前装冠」大きく増加した。NST活動の中で歯科業務に関してはターゲットの半数は義歯であり、今後歯科技工士のベツトサイドや院外の活動の展開を期待している。

4. 医療の質の検証

1) 褥瘡発生率

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
院内	9	7	6	8	5	6	6	5	3	11
持込み：在宅	12	14	9	13	7	14	19	17	6	15
持込み：施設	6	6	6	7	5	3	6	8	2	20
持込み：他院	3	3	1	3	5	7	6	2	2	3
合計（持込）	21	23	16	23	17	30	31	27	10	38

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
d2 以上院内発 生数	5	5	5	3	6	5	5	3	7
入院延べ患者 数	5,369	8,772	8,706	8,196	8,942	7,965	8,271	7,808	7,255
発生率	0.09%	0.06%	0.06%	0.04%	0.07%	0.06%	0.06%	0.04%	0.09%

参考

施設・組織	年	分子	分母	発生率
聖路加国際病院	令和3年	202	151,205	0.13%
日本病院会	平成30年	—	—	0.08%

解説；コロナ禍の影響で院内新規発生、持ち込み共に急増した。令和5年度の巻き返しに期待したい。ベンチマーキングでは、聖路加国際病院より良好で、日本病院会と同等の発生率であった。

2) 転倒転落

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
入院延患者数	4,574	6,106	9,538	9,498	9,200	9,751	9,096	8,968	9,069	8,294
転倒・転落数	9	12	20	19	15	28	13	24	27	12
率（‰）	1.97	1.97	2.1	2	1.63	2.87	1.43	2.68	2.97	2.16
損傷発生数	3	6	8	6	2	6	4	8	5	5
率（‰）	0.66	0.98	0.84	0.63	0.22	0.62	0.44	0.89	0.55	0.64

重度損傷発生数	0	0	2	0	0	2	0	1	3	4
率 (%)	0	0	0.21	0	0	0.21	0	0.11	0.33	0.48

参考

		入院延患者数	転倒・転落 数	率 (%)	重度損傷発 生数	率 (%)
聖路加国際病院	令和3年	160,818	308	1.92	8	0.05
日本病院会	令和元年度	—	—	2.70	—	0.05

解説；令和4年度は転倒転落数が減少したが、重度障害発生例が増えた。転倒防止に向けた更なる対策が必要である。ベンチマーキングでは、日本病院会の成績に比べ発生率は低いが、重度障害発生率（レベル4以上）は、聖路加国際病院や日本病院会に比べ大きく劣る。骨折などの重度障害発生率を下げるのが、喫緊の課題である。

3) MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）の検出状況

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
新規院内発生	1	2	2	5	2	4	5	4	4	2	0
持込み	1	4	1	3	3	1	6	6	10	3	4
継続	2	7	6	5	6	1	12	5	1	1	0
外来	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0
MRSA 統計	5	13	9	14	11	7	24	15	15	6	4
MSSA*				37	20	36	24	23	22	21	21
MRSA 比				27.5%	35.5%	16.3%	50.0%	39.5%	40.5%	22.2%	16.0%

解説；MRSAの院内新規検出は統計を始めてから初めてなかった。手洗い遵守などの院内の感染症対策の成果と誇りに感じる。黄色ブドウ球菌検出例の中で耐性菌の占める割合は低下傾向にある。

4) 培養件数

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
血液培養 (総セット数)	122	119	124	251	181	106	96	140	73
その他の培養	188	240	236	236	206	196	193	200	152
総培養件数	310	359	360	487	387	302	289	340	225

2セット血液検 体採取	112	118	124	250	180	106	96	140	70
2セット血液検 体採取率	91.8%	99.2%	100%	99.6%	99.4%	100%	100%	100%	95.9%
入院述べ患者数	6,106	9,538	9,498	9,200	9,751	9,096	9,386	9,491	8,666
血液培養施行率 ／1000 患者	20	12.5	13.1	27.3	17.8	11.1	10.2	14.8	8.4
陽性例	17	20	25	45	33	15	15	19	11
陽性率	13.9%	16.8%	20.2%	17.9%	18.2%	14.2%	16.7%	13.6%	15.1%
汚染件数	0	0	0	1	0	0	0	0	1
汚染率	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0%	0%	0%	0%	2.9%

解説；令和4年度の血液培養や全培養数はコロナ禍の影響で減少した。血液培養の2セット採取は定着している。1000 延べ入院患者あたりの血液培養施行に関しては、回復期（亜急性病院）として目標値の設定を検討中である。血液培養陽性率（目標値5～15%）はほぼ適切と思われる。汚染率（目標値2-3%）は低く抑えられている。

5) 待時間調査

		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 1回目	平成 30 年度 2回目	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
調査人数		263人	288人	465人	611人	578人	567人	574人	591人	524人	510人
平均待時間	来院～呼ばれた時間	104分	69.3分	70.6分	60.9分	74.3分	78.3分	60.3分	46.0分	54.8分	62.6分
	予約時間～呼ばれた時間		33.6分	23.4分	26.8分	36.9分	35.4分	32.5分	13.5分	22.3分	22分
予約患者対象	予約時間枠内の比率	47.3%	50.8%	65.7%	59.1%	43.3%	43.0%	47.0%	52.1%	53.5%	49.0%
	予約時間枠後30分以内の比率				82.7%	66.3%	64.5%	70.7%	77.8%	71.3%	72.7%

解説；令和4年度は、予約時間～呼ばれた時間の平均は22分で、約半数が予約時間内に診察を受け、予約時間枠後30分以内では約7割が診察を受けていた。予約時間内の診察がさらに増加するように一層の努力を継続したい。

6) 職員数

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
常勤	46	49	50	46	46	46	55	54	52	54
臨時	14	19	24	24	30	30	23	23	26	25
小計 1	60	68	74	70	76	76	78	77	78	79
包括・健福	3	4	2	3	1	2	2	2	常 2、 臨 1	常 2、 臨 1
小計 2	63	72	76	73	77	78	80	79	81	82
委託	11	15	15	15	15	15	14	13	14	14
総計	74	87	91	88	92	93	94	92	95	96

解説；病院の運営のためには適正なスタッフ維持が必須であり、町の協力で確保に力を入れている。令和 2 年度には給食業務が委託から臨時へと変わった。令和 4、5 年度は例年通りのスタッフ数で業務を行なっている。常勤医師数は、ここ数年は 3 ないし 4 名が確保されており充実している。

4. 委員会活動

1) NST（栄養サポートチーム）活動

(1) 入院時スクリーニング

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
入院患者数 (人) (a)	425	418	380	420	414	421	443	366
スクリーニング 実施数 (人) (b)	375	371	344	388	391	413	438	359
スクリーニング 実施率 (%) (b/a)	88.2%	88.8%	90.5%	92.4%	94.4%	98.1%	98.9%	98.1%
NST 対象一次リ ストアップ数 (人) (c)	194	175	188	238	245	262	270	252
NST 対象一次リ ストアップ率 (%) (c/b)	51.7%	47.2%	54.7%	61.3%	62.7%	63.4%	61.6%	70.2%

NST 対象最終リストアップ数 (人) (d)	100	57	51	99	66	53	35	17
NST 対象最終リストアップ率 (%) (d/b)	26.7%	15.4%	14.8%	25.5%	16.9%	12.8%	8.0%	6.60%
入院後 2 週間以内のカンファ実施数 (人) (e)	34	34	46	91	54	49	32	16
入院後 2 週間以内のカンファ実施率 (%) (e/d)	34.00%	60.70%	90.20%	91.90%	81.80%	92.50%	91.40%	94.10%

解説；NST の入院時スクリーニングは定着している。最近では約 6 割が低栄養として拾い上げてきたが、令和 4 年度では、7 割台に増加しており、入院患者の高齢化に加え、コロナ禍の影響が窺われた。低栄養患者へはタイムリーな NST 介入が必要であり、過去 2 年間は最終 NST リストアップ率が低く気になる。スクリーニングでリストアップされた症例に関する入院後 2 週間以内のカンファ実施率は、平成 29 年度以降は高率に維持されている。

(2) 病棟看護師と歯科衛生士の口腔内スクリーニング

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
実施回数 (回)	51	52	50	48	49	47	49	43
対象患者数 (人) (a)	258	223	175	309	414	286	327	286
口腔回診実施数 (人) (b)	237	211	169	289	302	285	327	286
対対象患者口腔 回診実施率 (%) (b/a)	91.9%	94.6%	96.6%	93.5%	99.3%	99.7%	100.0%	100.0%
歯科医師診察必 要数 (人) (c)	64	61	49	105	81	81	94	80
歯科医師診察実 施数 (人) (d)	55	49	45	86	79	81	92	79
歯科医師診察実 施率 (%) (d/c)	85.9%	80.3%	91.8%	81.9%	97.5%	100.0%	97.9%	98.8%

対対象患者歯科 医師診察実施率 (%) (d/a)	21.3%	22.0%	25.7%	27.8%	26.5%	28.4%	28.1%	27.6%
---------------------------------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

解説；病棟看護師と歯科衛生士が入院患者の口腔内スクリーニングすることで、早期に口腔内環境・機能に関してタイムリーに治療を開始することが可能となる。対対象患者口腔回診実施率と歯科医師診察実施率は高く維持されている。令和4年度は例年通りの実施状況であった。

(3) 病棟看護師と歯科衛生士のスクリーニング後の歯科医の介入内容

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
義歯 関連	30	54.5%	31	63.3%	24	53.3%	43	50.0%	48	60.8%	53	65.4%	48	52.2%	52	65.8%
外科 処置	5	9.1%	3	6.1%	3	6.7%	20	23.3%	8	10.1%	2	2.5%	6	6.5%	8	10.1%
歯周 病関 連	2	3.6%	1	2.0%	0	0.0%	2	2.3%	3	3.8%	5	6.2%	2	2.2%	10	12.7%
その 他	6	10.9%	4	8.2%	7	15.6%	4	4.7%	3	3.8%	5	6.2%	5	5.4%	5	6.3%
診査 のみ	12	21.8%	10	20.4%	11	24.4%	17	19.8%	17	21.5%	16	19.8%	26	28.3%	4	5.1%

解説；口腔内環境・機能に関するスクリーニング後の歯科医の介入の内訳では義歯関連が圧倒的に多い。令和4年度は積極的な治療介入を行っていた。

(4) 入院時のアルブミン値

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
測定数	127	258	251	189	255	252	248	282	245
3.5g/dL以下	76	164	157	100	148	169	161	156	151
	59.8%	63.6%	62.5%	52.9%	58.0%	67.1%	64.9%	55.3%	61.6%
3.0g/dL以下	44	100	88	53	76	91	23	88	83
	34.6%	38.8%	35.1%	28.0%	29.8%	36.1%	33.5%	31.2%	33.9%

解説；入院患者のアルブミン値の評価では、例年通り6割が低栄養、3割が中等後以上の低栄養である。外来、地域での、栄養管理の向上が望まれる。

(5) 血清プレアルブミン値と亜鉛値の測定件数

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
プレアルブミン	304	190	156	47	4	0	0	0
亜鉛	324	201	190	201	192	171	222	258

解説；プレアルブミンは臨床的有意性が評価できずルチンの使用は中止した。亜鉛に関しては、検査科の働きかけで、検査数が増加傾向にある。

(6) 栄養輸液剤、経腸栄養剤、院外門前薬局：すみれ薬局の経腸栄養剤

栄養輸液剤の使用数（本）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
イントラリポス	100	270	410	386	100	83	88	12
ビーフリード	960	980	960	871	454	380	155	297
エルネオパ	100	99	510	328	158	23	54	8
エネフリード								195

経腸栄養剤の使用数（本）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
ラコール総数	264	168	604	506	728	675	681	1,026 (200)、 132 (400)
エンシュア総数	2304	1632	408	0	0	0	165	48

院外門前薬局：すみれ薬局の経腸栄養剤の処方（mL・g）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
エンシュア	387,000	728,500	864,750	921,500	1,084,750	881,000	730,750	495,750
エンシュアH	0	0	35,500	347,250	298,000	324,000	204,750	91,000
ラコール	332,600	638,800	656,000	1,030,600	1,515,000	1,712,400	1,512,600	1,296,600
ラコール 半固形	0	6,000	0	34,200	0	0	0	39,600

解説；栄養輸液剤に関しては、新しくブドウ糖、アミノ酸、脂質の3栄養素が含まれた製剤が導入された。経腸栄養剤の処方はいずれも経年的に増加しており、低栄養対策が浸透しつつある。

5. 教育関係

1) 研修、実習受け入れ

(1) 医科、歯科、リハビリテーション部門

	内容	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
医科	研修医； 地域医療	5名	5名	6名	7名	6名	6名	5名	4名	7名
	1年次学生； 医療体験実習	4名	4名	4名	4名	4名	4名	0名	4名	0名
	3年次学生； 地域医療	2名	2名	2名	2名		2名	0名	1名	0名
	5年次学生； 地域医療				1名	1名	8名	0名	0	0名
歯科	研修医； 地域医療	4名	7名	4名	5名	8名	11名	0名	4名	5名
	5年次学生； 地域医療	4名	4名	4名	4名	4名	4名	2名	4名	6名
リハビリ 部門	理学療法科学 生；病院実習	2名	3名	3名	5名	6名	5名	14名	8名	12名

(2) 看護科

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
受入れ施設	8施設	9施設	9施設	10施設	6施設	8施設	4施設	4施設	4施設	2施設
延べ日数	9日間	26日間	28日間	26日間	35日間	38日間	32日間	33日間	33日間	4日間
受入れ人数	19名	60名	70名	57名	50名	48名	48名	48名	8名	4名
延べ研修 時間	115 時間	257.5 時間	429 時間	285 時間	371 時間	342 時間	384,5 時間	380,5 時間	80.75 時間	31.5 時間
担当スタッ フ延べ数	42名	77名	84名	102名	65名	75名	69名	63名	53名	17名

解説；医科実習生の受入れは、一コロナ禍の影響で縮小した。研修医の受け入れは医科、歯科とも例年通り受け入れた。リハ部門の実習生受け入れはここ数年特に活発である。令和3、4年度

の看護科の研修、実習受け入れ人数の減少は、新型コロナ感染蔓延に伴う救急救命士の実習中止による。

5) 研修会の参加状況

(1) 感染対策研修 (表 60)

		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
1 回 目	対象者*	86	86	82	84	81	88	87	91
	集合研修 参加者	53	61	54	62	55	88	42	48
	参加率 (%)	62%	71%	66%	74%	68%	100%	47%	52%
	全参加率**	86%	91%	84%	82%	88%	100%	99%	100%
	備考	資料配 布	資料配 布 (アン ケート 実施)	ビデオ 研修 (アン ケート 実施)	ビデオ 研修 (アン ケート 実施)	院内講 師 ビデオ 研修 (アン ケート 実施)	院内講 師 タイペ ック着 脱(個 別実 習)	院内講 師 ビデオ 補修、 アンケ ート実 施	院内講 師 ビデオ 補修、 アンケ ート実 施
2 回 目	対象者*	87	86	82	81	82	86	86	88
	集合研修 参加者	65	65	60	54	40	40	43	88
	参加率 (%)	75%	76%	73%	67%	48%	48%	50%	100%
	全参加率**	93%	93%	88%	81%	86%	100%	100%	100%
	備考	資料配 布 (アン ケート 実施)	ビデオ 研修と 手洗い 実習	PPE 着 脱実習 (アン ケート 実施)	e-ラー ニング	院外講 師 ビデオ 研修 (アン ケート 実施)	院外講 師 ビデオ 補習 (アン ケート 実施)	院内講 師 ビデオ 補習 (アン ケート 実施)	院内講 師 動画視 聴 (アン ケート なし)

*職員+受付委託

**追加研修を含めた参加率

解説；感染対策の研修会は全員参加が原則で、年2回の開催が義務付けられている。1回目は補講を精力的に行い、最終的には100%の受講率となっている。

(2) 安全研修参加

		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
1 回 目	対 象 者 *	73	88	86	82	82	82	78	78	80
	参加者	55	73	58	57	54	48	65	38	31
	参加率	75%	83%	67%	70%	66%	58%	83%	49%	39%
	全参加 率**	75%	97%	92%	88%	84%	83%	100%	100%	100%
2 回 目	対 象 者 *		87	85	81	81	81	78	75	79
	参加者		61	50	56	51	48	43	38	75
	参加率		70%	59%	69%	63%	59%	55%	51%	95%
	全参加 率**		95%	78%	85%	82%	83%	100%	100%	100%

*職員+受付委託

**追加研修を含めた参加率

解説；医療安全研修会は全員参加が原則であり、年2回の開催が義務付けられている。補講を精力的に行っており最終参加率は100%に達している。

6. 福利厚生関係

平成28年度から衛生委員会を月1回定期的に開催した。

1) 夏季休暇取得率(%)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
医師	58.3	75	81.3	87.5	35	93.8	43.8
医療技術職	88.5	95	98.2	95.3	91.6	95.3	90
看護師	100	100	100	100	100	100	100
事務職	85	87.5	93.8	87.5	87.5	93.8	100
臨時職員・会 計年度職員	96.3	100	100	100	100	100	99.1

解説；夏季休暇の取得率は、医師以外はほぼ適正を考えられる。医師は働き方改革で、年次休暇取得を優先したため減少した。

2) 年次休暇取得日数

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
医師	4.7	1.4	1.25	2.6	2.2	1	3.5
医療技術職	7.1	7.4	7.1	6.9	9.4	9.1	14.1
看護師	7	5.7	9.2	9.2	17.2	8.6	9.5
事務職	8.1	8.2	13.5	13.5	10.8	8.1	14.9
臨時職員・会 計年度職員	7	5.8	6.1	6.3	4.3	4.7	6.5

解説；年次休暇取得日数は、働き方改革の流れで増加傾向にあるが、実数はいずれの職種も少なく、増加を目指したい。

3) 超過勤務

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
時間外勤務	2,730	2,724	3,033	3,112	1,898	1,669	1,363	2,094	2,016
月 80 時間以 上の延人数	9	6	4	5	0	0	0	0	0
月 45 時間以 上の延人数	14	13	22	26	8	1	1	0	1
年 360 時間以 上の人数	1	1	2	3	3	0	0	0	0

解説；新型コロナ対応により、令和3年度以降は時間外勤務が増加した。しかし、長時間勤務者ではなく適正な労働状況になっている。

参考資料：

聖路加国際病院 QI センター Q I 委員会編集：Quality Indicator「医療の質」を測り改善する聖路加国際病院の先端的試み 2022。インターメディカ、東京、2023